



2026年1月30日

各 位

会 社 名 サイバートラスト株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 北村 裕司
(コード番号: 4498 東証グロース)
問合せ先 取締役 常務執行役員 CFO 清水 哲也
(TEL 03-6234-3800)

2026年3月期 第3四半期決算に関する質疑応答集

当社の2026年3月期 第3四半期決算に関して、当社で想定していました質問および発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問い合わせ、感想および当社からの回答をまとめましたので以下の通りお知らせいたします。

なお本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆修正を行っております。

第3四半期決算動画+社長インタビューは[こちらから](#)

決算説明動画のほかに、社長インタビュー動画も配信しています。

社長インタビューでは第3四半期の進捗について、高成長牽引サービスである iTrust の注目すべき KPI、プラットフォームサービスの今後の見通しなどに関して説明をしています。是非ご視聴ください。

質疑応答内容

Q1 第3四半期の業績は前年度比增收増益、通期予想に対する進捗率も売上高・営業利益ともおよそ75%まで来ています。この進捗をどう評価していますか？

A1 第3四半期につきましては、前年同期比で二桁の增收増益となり、想定通りの着地であったと考えております。また、例年に比べて売上高、営業利益ともに進捗率が良い状況であり、通期業績予想の達成に向けて好調に進捗していると評価しております。

Q2 トラストサービスの中でも成長を牽引している iTrust が前年同期比 54%増と大きく伸びていますが、この力強い成長トレンドは今後も続くのでしょうか？

A2 iTrustにつきましては、経済社会活動におけるデジタルトランスフォーメーション (DX) という非常に大きな流れの中、特に今後の法改正に向けて、金融機関や通信業界でのオンライン完結型サービスにおいて本人確認の重要性が一層高まっております。そのような環境の中、第3四半期は証券口座や銀行口座の開設で本人確認サービスの利用が増加しております。今後もその法改正を受けたトランザクションの増加が見込まれます。

Q3 iTrust のサービスについて、投資家が注目すべき数値は何でしょうか？

A3 注目していただきたい数字は、「トランザクション数」です。

iTrust は、本人確認、電子署名ならびに最近加わった e シールの実行件数をトランザクション数としてカウントしています。この実行件数に単価を掛け合わせたものが売上となるため、この回数が伸びれば伸びるほど収益が増加していくという構造です。

当第3四半期では、売上ベースで54%増となり、特にその中でも本人確認サービスの影響が非常に大きくなっています。証券会社における口座開設、あるいは、銀行における口座開設や送金時の本人確認による実行件数が大きく増えたことが、トランザクション数の大幅な増加に寄与しました。また、電子署名サービスにおいても、パートナー様を経由した電子署名が拡大しており、これもトランザクションの増加に貢献しております。今後も本人確認の厳格化やペーパーレスのさらなる進展によって、iTrust の市場としては非常に追い風であると考えております。

Q4 プラットフォームサービスについて、Linux サポートでは第2四半期に大手事業者の大型案件、そして第3四半期には金融機関向けの大型案件を獲得ということですが、今後の Linux サポートの見通しはいかがでしょうか？

A4 Linux サポートにつきましては、これまでに獲得いたしました大手のお客様の中においても、様々な OS の環境やバージョンが複雑で多岐に渡り、かつ、大規模なシステムを有するお客様が存在しています。こうした環境下において、当社の Linux サポート、OS サポートのニーズがあることを確認しております。そのような大規模なシステムにおける包括的な長期サポートの案件獲得を、来期以降もしっかりと捉えていきたいと考えております。

また、当社が力を入れております AlmaLinux のサポートに関しても、本格的な収益化を目指して取り組んでいるところです。具体的には、富士通様とのサーバーと組み合わせた提供形態、また NTT データ様との仮想化環境を組み合わせた提供形態など、AlmaLinux 提供の準備を進めてまいりました。今後はこれらの様々な提供形態をもって、重要インフラ分野のお客様のシステム移行のタイミングを的確に捉えて、AlmaLinux の利用拡大に取り組んでいく所存です。

Q5 AlmaLinux のサポート事業は御社による提供のみではなく、他社との連携した提供もある、という理解で適切でしょうか？

A5 はい。色々なシステムや、その基盤は、OS 単体というよりは、サーバーというハードウェアや、仮想基盤というミドルウェアと上手く組み合わせて利用されるのが一般的な利用形態です。そのため、当社がパートナー様と協業することによって、よりお客様にとって導入しやすい形で提供することも AlmaLinux 利用拡大の取り組みの一環となっています。

Q6 四半期毎の売上高推移について、前年同期比でリカーリング売上高の伸びが直近になるほど強くなっているのは、なぜでしょうか？

A6 2つ大きな要因があります。1つ目は、前期に開始した CentOS 延長サポートです。

これを契機として、前期は Linux サポートが大幅な增收となって、リカーリングサービス売上の規模を一段引き上げました。この効果は今期も継続しており、大型サポート案件の受注に加え、包括的なサポートのニーズをしっかり取りめたことが大きな要因となっています。これを受け、当第

3 四半期の Linux サポートも前年同期比で増収となり、今後も増収傾向を見込んでおります。また、高成長牽引サービスの iTrust が当第 3 四半期で 54% 増という非常に大きな成長を実現できました。このように需要をしっかりと取り込んで成長を加速できたことも、リカーリングサービスを大きく押し上げた要因であると評価しております。

* iTrust®は当社の登録商標です。

* その他本文書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、当社または各社、各団体の商標もしくは登録商標です。

以上